



# チーム医療に役立つスキルについて

Team  
Science

Psychological  
Safety



Social  
Sensitivity

Emotional  
Intelligence

司会：林田 哲（慶應義塾大学 一般・消化器外科 乳腺班）

下村昭彦（国立国際医療研究センター 乳腺・腫瘍内科/臨床ゲノム科）

SSP8：「コレクティブインパクトによるがん治療のための集学的アプローチ」

上野直人（ハワイ大学がんセンター）

ディスカッサント：

土屋 雅美（宮城県立がんセンター・薬剤部）

飯原 大稔（岐阜大学医学部附属病院 薬剤部）

入江 佳子（筑波大学附属病院 看護部）

永山 愛子（慶應義塾大学 外科〔一般・消化器〕）

黒澤 真紀（慶應義塾大学病院 看護部）



セッション中にアンケートを実施します。スマートフォン、タブレット、パソコンなどで、学会アンケートシステム（アンサーパッド）よりご参加下さい。

「がんチーム医療」は、2001年JSCO（広島）において、Japan TeamOncology Program(J-TOP) 設立者でもある、上野直人がチーム医療のあるべき姿を提示し、その後広く浸透してきました。

チームの形成は、複雑化するがん医療においては必須であると考えます。また、更に高齢化が進む日本社会において、限られたリソースで、増加するがん患者に患者中心の医療を提供するためには課題は多くあります。

「チームがうまく機能していないな」と感じることはないでしょうか？ チームへの参加や運営が漫然としていると、うまくいかないことも多く、課題解決には、新しい多職種ケアのトレンドである、「チームサイエンス」のアプローチを取り入れることが必要です。

本セッションでは、事例を取り上げ、登壇者、参加者とともにディスカッションし、日常臨床の場ですぐに活用できるスキルについて学びを深めます。

終了後のアンケートにご協力をお願い致します🙏

